

有害性総合評価表

物質名：アルファ、アルファ-ジクロロトルエン

有害性の種類	評 価 結 果
ア 急性毒性	<u>致死性</u> <u>ラット</u> 吸入毒性：$LC_{50} = 400 \text{ mg/m}^3 \text{ 2h}$ (60 ppm 2h) 経口毒性：$LD_{50} = 1400 - 3249 \text{ mg/kg}$ 体重 <u>マウス</u> 吸入毒性：$LC_{50} = 210 \text{ mg/m}^3 \text{ 2h}$ (31.5 ppm 2h) 経口毒性：$LD_{50} = 1400 - 2462 \text{ mg/kg}$ 体重 <u>健康影響</u> - マウス及びラットを 100 mg/m^3 (15 ppm) に 2 時間吸入ばく露した実験で中枢神経系の興奮、四肢、耳介及び尾部の充血、眼及び鼻粘膜に対する刺激、呼吸数の減少がみられている。 - ラットを 100 mg/m^3 (15 ppm) に 2 時間吸入ばく露した実験で、ばく露後 30 分以内に神経-筋の興奮性の低下がみられ、その後、一転して亢進することが示されている。また、出血性の鼻汁がばく露後 1 週間にみられ、一過性の体重減少も認められている。 - マウス及びラットを 1000 mg/m^3 (152 ppm) に 2 時間吸入ばく露した実験で、マウスで自動運動、ラットでは末梢筋肉の攣縮がみられ、病理組織学的にすべての器官での循環障害、感染を伴った気道の炎症、肝臓、腎臓、心筋及び脳の変性が認められている。
イ 刺激性/腐食性	皮膚刺激性/腐食性： あり 眼に対する重篤な損傷性/刺激性： 軽度の刺激あり 根拠：
ウ 感作性	皮膚感作性： 報告なし 呼吸器感作性： 報告なし
エ 反復投与毒性(生殖・発生毒性/遺伝毒性/発がん性は除く)	LOAEL NOAEL = 判定できない 評価できる試験はなかった。
オ 生殖・発生毒性	報告なし
カ 遺伝毒性 (変異原性を)	遺伝毒性： 判断できない 根拠： 原核生物を用いた実験系の結果では陽性であったが報告数が少なく、真核生物

含む)	の細胞あるいは動物を用いた実験の報告はない。
キ 発がん性	発がん性の有無：ヒトに対して恐らく発がん性がある。 根拠： IARC、日本産業衛生学会の発がん性分類が 2A である。 閾値の有無：判断できない 根拠：真核生物の細胞や動物を用いた遺伝毒性実験が報告されていない。
コ 許容濃度の設 定	ACGIH TWA： 設定されていない 日本産業衛生学会：設定されていない ドイツ MAK：皮膚吸収(H)；発がん性カテゴリー：2